

# 太田東西かわら版 2010.10

## 「あいさつ運動」～継続は力なり



近所の小学校の通学路に立ち、今月で10年目。  
始めた当時、その学校に通う息子2人は小学4年生と1年生。(もう、とっくの昔に卒業して今や大学1年と高校1年)。  
まさに、光陰矢のごとし。

太田東西も「10」歳をとったわけですが、それに応じて「人間的に成長できたのか？」と訊かれたら、「YES！」と言わせてください。

何より「寛容さ」を修得できました。

そうです、このあいさつ運動は、「子供たちのため」というよりも、太田東西のテーマ、「母性」(無償の愛)を培う修行の場だったのです！

# 太田東西、怒りまくる！

あいさつ運動初期のお話。

こちらから小学生に「おはよう！」と声をかける。  
しかし、無言で通り過ぎる…。下を向いたまま返事をしてくれない…。  
友達同士でのおしゃべりに夢中で、完璧に無視される…。

そうした小学生（およそ高学年）に対し、当時の太田東西は、怒りまくった！  
女子にはやさしく接するも、男子生徒に対しては  
「おい、お前ら聞こえたのか？ 聞こえていたら、あいさつしろよ！」と叱咤。  
「スパルタあいさつ運動」を実施していました。（手は出しませんよ）

ある雨の日、「ランドセルと頭が濡れているから、傘をさして行きなさい」と  
男子生徒に注意しました。

しかし、その子は無視して通り過ぎた。  
「傘をさしなさい！」もう一度注意すると、「うるさい」と返って来た。  
その態度に、太田東西、怒り爆発！  
「もういっぺん言ってみろ！ 今、何て言った！」と、その子に詰め寄る。  
高学年特有の反抗期か、彼も強情だった。太田東西をにらみ返す。  
結局、彼は傘を手に持って、ずぶぬれのまま行ってしまった。

もちろんそうした生徒は少数で、大半は元気にあいさつしてくれるのですが  
だからこそ悪態をつく子が目に付いて、つい叱ってしまう…。

「子供たちに礼節を持たせたい」

「子供たちを危険から護りたい」

その一心で始めたあいさつ運動でしたが、悪態をつかれたり、無視されたり  
すると、だんだんやる気もなくなります。  
「朝の忙しい仕事前にイライラさせられて、もう絶対明日から行かないぞ！」  
と憤慨することしばしば。

でも翌朝には、なぜかまた「現場」に行っちゃうんですね。  
で、また「もう、やめたっ！」となる…。  
およそ3年目までは「葛藤のあいさつ運動」でした（笑）

## 太田東西、ほめまくる！

そうした葛藤を繰り返して、たどり着いた先は、開始当初とは真逆の「ほめる」あいさつ運動でした。

太田東西の「おはようございま～す」に、あいさつしてくれたら、すかさず「えらいっ！」「いいあいさつ！」「さすがっ！」「いいねえ～」「バッチリ！」と、子供たちに返します。笑顔で、ジェスチャーを交えて。

太田東西の大げさなジェスチャーを見て、笑う生徒が増えました。

「変なおじさ～ん！」と、大笑いして通り過ぎる低学年の女の子達...（汗）

（太田東西は志村けんが好きなので、そう言われてうれしいです）

しかし、朝から元気のない子もいます。

ボソボソとあいさつする子。頭だけ下げる子。

以前は「聞こえないぞ～！」と言ってましたが

今は右写真のように、ジェスチャーで対応。

耳に手を当てるこのジェスチャー。

ロックコンサートで観客を煽る際、ヴォーカリストがよくやっています。

観客に対して「聞こえないぞ～！」「もっと

大声で元気よく！」というジェスチャー。

その甲斐あって、元気のない子も、だんだんあいさつをしてくれるようになりました。



「おうっ！」と、太田東西にあいさつする高学年男子。

昔なら「おうっ！とは何だ！ふざけるな！！」と怒っていたでしょう。

同じ「おうっ！」ではシャクにさわるので、「よっ！」と返しています。

「ハロー」という子には、「ここは日本だぞ！おはようございます、だろ！」と昔は叱っていましたが、でも、今はこちらも「ハロー！」で返しています。

「ゼロハチヨー！」という子がいます。「ゼロハチヨーって何だ？」と訊いたら

「08ヨーでオハヨー」と言うのです（笑）。こちらも「08ヨー」と返します。

全く言わない（言えないシャイな）子もいます。

そうした子でも、通り過ぎる時の表情をよく見ると、口が微妙に動いていたりわずかに頭を下げてくれたりしています。

その子なりの、懸命なあいさつなんですね、きっと。朝から元気のない子には「おはよう」と、「ウイパー（ささやき）あいさつ」を心がけています。

## 太田東西、七変化！

「自分が変われば、相手も変わる」。そう、よく耳にします。  
妻が、嫁が、母が変われば、夫も、姑も、子供も変わる。  
「自分が変わる」。しかし、これがなかなか難しい...

あいさつ運動開始当初の太田東西のように、「正義感」「常識」を盾に、「相手を変えよう」とする人が多いです。結果、太田東西が「もう、明日からやめるぞ！」と怒ったように、相手が変わらないことにストレスを感じ、イライラする...。こうしたストレスが、頭痛、腰痛、不眠、めまい、吐き気などにつながります。

あいさつしない子から、太田東西は学んだのです。  
「まずは自分が変わろう！」「あいさつしない子供の目線に合わせよう！」と。そして「あいさつしない子に罪はない」と、寛容になりました。  
2ページ目の傘をささなかった子。今では叱り飛ばしたことを反省しています。きっと彼の家庭は、笑顔の少ない暗い家庭なのかもしれません。短気な親に理不尽に叱られてきた結果、大人に反抗的ななのかもしれません。

朝からご飯をおかわりする元気な子がいれば、朝から食欲のない子もいます。  
「朝からモリモリ食べる子が、元気でいい子！」という大人のレッテル貼りが体質的に（胃下垂、低血圧）朝食を受けつけない子を否定することになります。同様に「大声で元気よくあいさつできる子が、とてもいい子！」という大人の言動が、できない子に対して「ダメな子...」という自己否定の種を植え付けることになりかねません。

これを悟った太田東西は、「あいさつ七変化」で対応。  
大声で元気にあいさつする子には、気合だ！気合だ！のアニマル浜口のようにこちらまでっかい声で。低学年の女子には、はるな愛モードで、可愛らしく声に出せない内気な子には、笑顔とアイ・コンタクトのみで。

あいさつ運動は  
子供に礼節を教えることよりも  
子供に「笑顔」を与えるために続ける。

太田東西は、「情のあいさつ運動」で  
子供たちに「母性」を放電します！

44歳のおじさんと9歳の女の子  
ま～る、さんかく、ながしかく～

